

# 概要版 平成 29 年度商店街実態調査結果（H30.3.30 公表）

創業・サービス産業振興室

## 調査概要

中心市街地の活力低下や消費行動の多様化等、県内商店街が直面している課題や問題点を把握するため実態調査を行い、県内商店街の今後の展望を探り、本県の商業振興施策の基礎資料とする。

- ・調査基準日 平成 29 年（2017 年）7 月 1 日
- ・調査方法 地元商工団体の協力を得て調査票を各商店街に配布・回収
- ・対象商店街 県内に所在する、10 店舗以上の会員により組織され、かつ共同事業を実施している全ての商店街

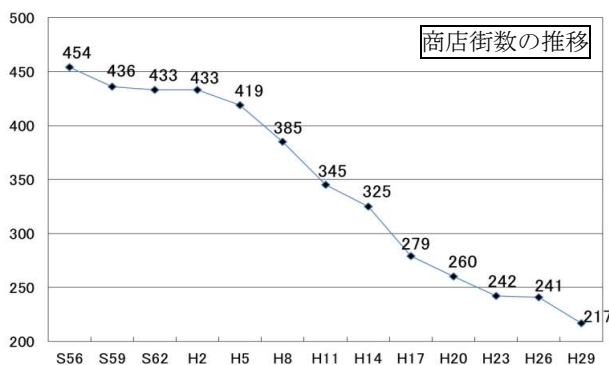
## 結果概要 ※括弧内は前回調査比 ※前回調査は平成 26 年度に実施

- ・商店街数は 217（▲24）
- ・景況感は「繁栄」が 3.2%（+0.7 ポイント）「変わらない」が 39.6%（+5.2 ポイント）「衰退」が 57.1%（▲0.6 ポイント）
- ・空き店舗率は 9.5%（+0.7 ポイント）
- ・インバウンド事業の実施をしている商店街は全体の 5.5%（初調査）

## 主な結果

### 1 商店街数

商店街数は昭和 56 年をピークに減少傾向にあり、前回調査に比べ 24 商店街減の 217 商店街となった。



項目	H29	H26	増減
商店街数	217	241	▲ 24
店舗数(空き店舗を除く)	8,829	9,641	▲ 812
1商店街辺りの平均店舗数	41.1(※)	40.0	1.1

(※)未回答の 2 商店街を除く 215 で除した数

### 2 景況感

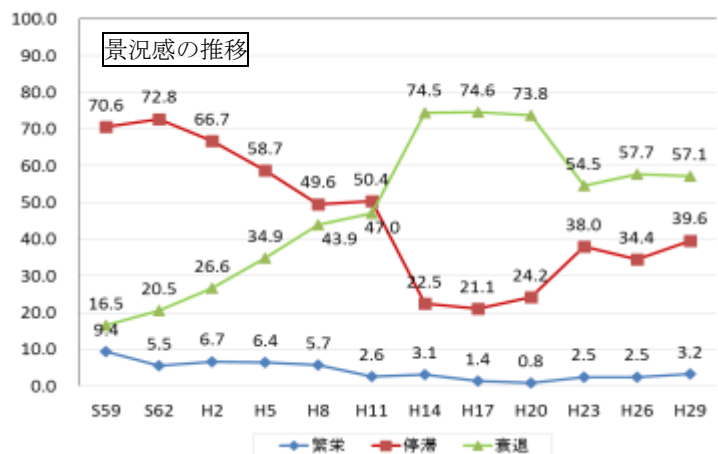
「繁栄」(3.2%)と回答した商店街の割合は前回調査から 0.7 ポイント増加した。「変わらない(停滞)」(39.6%)と回答した商店街は 5.2 ポイント増加し、「衰退」(57.1%)と回答した商店街は 0.6 ポイント減少している。

#### 繁栄していると回答した要因

- 魅力ある店舗の増加：57.1%
- 駐車場・駐輪場の設置：28.6%
- 商店が連続している：28.6%

#### 衰退していると回答した要因

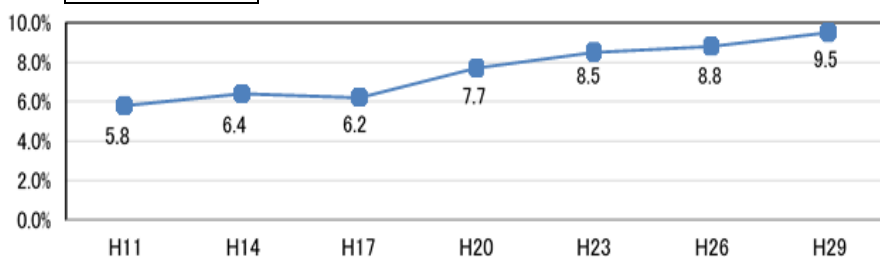
- 店主の高齢化(後継者の不足)：54.8%
- 域外大型店への客の流出：54.0%
- 商圈内の人口、世帯数の減少：48.4%



### 3 空き店舗率

調査対象 217 商店街における空き店舗率は 9.5%であり（前回に比べ 0.7 ポイント増加）、このうち 36.0%が「貸したい（売りたい）が借り手（買い手）がない」状況である。

空き店舗率の推移



空き店舗の活用意向

貸したい(売りたい)が借り手(買い手)がない	36.0%
店舗として利用するつもりがない	38.3%
その他	16.3%

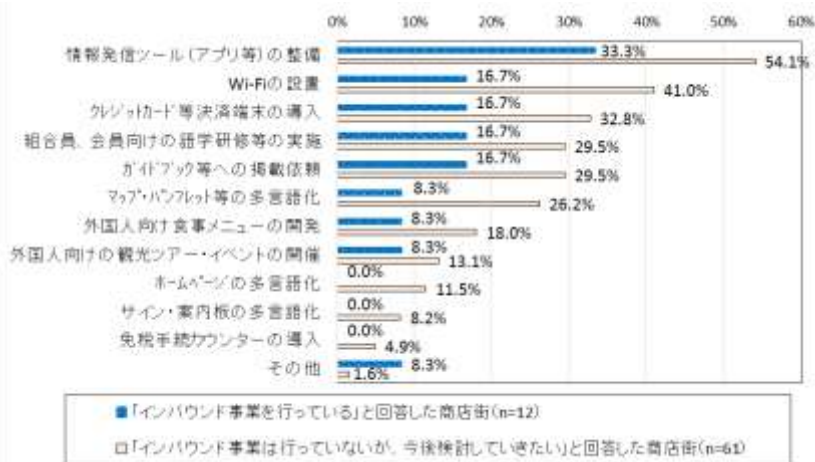
### 4 インバウンド事業への取組状況

外国人観光客受け入れのための取組を実施している商店街は 5.5%であり、「行っていないが今後検討したい」商店街が 28.1%、「行っておらず今後も実施する予定はない」商店街が 65.4%となっている。なお、「インバウンド事業を行っている」もしくは「インバウンド事業は行っていないが、今後検討していきたい」と回答した 73 商店街では、今後実施していきたい取組としていずれも「情報発信ツール（アプリ等）の整備」が最も多くなった。

取組状況

行っている	5.5%
行っていないが今後検討したい	28.1%
行っておらず今後も実施する予定はない	65.4%

今後実施していきたい取組



その他、詳しくは「平成 29 年度長野県商店街実態調査報告書」をご覧ください

<https://www.pref.nagano.lg.jp/service/sangyo/shokogyo/toukei/shotengai/index.html>